

代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社
代表取締役 井上 明美



いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

いつの間にか季節は春に。しかし春とはいっても、朝夕はまだまだ冷え込みますね。

大相撲では、19年ぶりの日本人横綱稀勢の里誕生に、日本中が沸いております。

日本人として誇らしい限りですね。

春陽のもと穏やかなる日々をお過ごしください。

サンライズの物語

難病と闘いながらも魅力的な笑顔で過ごされた日々。

いつまでもその日々が思い出される、ご利用者との思い出の物語



その方と初めてお会いした時は、65歳になる介護保険利用になるときでした。

失礼な言い方ですが少女のような面影を残したとってモチャーミングな魅力に驚いたのを鮮明に覚えております。

しかし、その方の身体は満身創痍・・・難病（短腸症候群）脳梗塞、脳腫瘍等の数々の病気と戦ってきた人でした。気候が暑くなると脱水になり何ヶ月も入院しては在宅へ戻ることを繰り返し、主治医からも癌に例えれば末期と診断されておりましたが、自分の自伝を書いたり、綺麗な花を愛でたりと、自宅での些細なことにも感謝をする、人間としてとても素敵な方でした。

辛い闘病生活なのに私が訪問するといつも身近で感動した話、楽しい話をされ、ケラケラと笑うのです。

そんな中終わりは突然やってきました・・・

インフルエンザを患ってしまい緊急搬送されましたが、感染症の為自宅へ戻り翌朝、大好きだった自宅で息を引き取ってしまわれたのです。

ご主人様からは難病と診断された時から覚悟はできていたとのことをお話を聞きました。

いつでしたか・・・「今生きていられるのはヘルパーさんのお陰です、しいては貴方の采配のお陰です。ありがとう」と言われ涙が零れて止まらなくなったのを思い出しましたが、果たしてその方の苦しみや悲しみにどれだけ寄り添っていられたのかと思います。

「人は永眠しても居なくならない、その人を思い出す人がいる限り生き続ける」と・・・素敵な笑顔、忘れません。

「プロカウンセラーが教えるはじめての傾聴術」

ナツメ社 著者：古宮昇

心と心を通わせることにおいて大切な「傾聴」。最も大切なのは「何と言って」返すかではなく、「どのように」相手の心に共感し、求めていることを汲み取るかといった、傾聴の理論と技術を展開した一冊です。傾聴の実践に欠かせない技法のほか、「人間の心の成り立ち」や「傾聴を妨げる心の動き」についても詳しく解説しています。



NEWS 今月のニュース

昔の経験と知恵生かし 宅老所利用者がみそ作り

嬉野市嬉野町のデイサービス宅老所「芽吹き」が、利用者のリハビリやレクリエーションを兼ねてみそ作りに取り組んでいる。各家庭で作っていた昔の経験と知恵を生かして作ったみそを、ゆくゆくは地域にお披露目し、利用者には社会参加の実感を得てもらおうと狙っている。

毎月1回程度、利用者のうち10人前後で仕込み作業に当たる。今月も頭に三角巾を着け、ビニール手袋をした女性と中林正太社長らスタッフが取り組んだ。

米麴8キ口に塩と煮えた大豆4

キ口を混ぜる。煮えた大豆をつぶす作業は特に力が要り、「昔は臼ときねでつきよったよ」「こりゃあした筋肉痛ばい」と笑い合った。

みそ作りを始めたのは昨年夏。「デイサービスには『介護される人が行く所』という見えない壁がある」と中林社長は言い、「利用者が支えられるだけでなく、地域を支えられる存在だと示したい」と考えていたところ、かつて利用者が家庭でみそを手作りしていた経験に着目。それぞれの作り方を参考にレシピをまとめた。

宮崎静子さん(88)＝嬉野市＝は「昔はかめでみそもしょうゆも作りよったよ。作ったみその下にたまる汁を餅に付けて食べるの

がおいしかった。懐かしい」と目を細める。

中林社長は「完成後は地域で『みそ汁会』やみそ作り体験会を開きたい。利用者にとって当たり前だったみそ作りのノウハウに価値があることを実感してもらい、生きがいにもつなげれば」と期待している。



<佐賀新聞
2017年03月20日(月)>



今月の 名言

ちょっとだけ泣いて、後は太陽がまた出てくるのを待つよ。
太陽は必ず昇るわ。

— マリア (映画「サウンド・オブ・ミュージック」)

映画「サウンド・オブ・ミュージック」から抜き出した一言。耐えられないほどつらいことがあつたら無理にポジティブにならず、でも少し休んでまた明るさを取り戻そうと励まされるセリフです。

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>